

水ストレスと私たちの未来

沖繩県

那覇市立真和志中学校 三年 田仲 未莉

皆さんは「水ストレス」という言葉を聞いたことがあるだろうか。あまり耳にしたことがないと思う。私が初めてこの言葉を聞いた時は「なぜ水にストレスを感じるの？」と言葉の意味すらわからなかった。水ストレスとは、日常生活を送るのに不便を感じるほど水が足りない状態のことだ。現在、世界総人口の約四割の三十六億人が水ストレスに悩まされており、世界では水不足が深刻化している。

これは海外だけの話ではない。豊かな水資源を誇るとされていた日本ですが、実は水ストレスが高いと言われている。私はこれを聞き、とても衝撃を受けた。小学生の時に家族で台湾に旅行に行った際に、水道水を飲むことが出来なかったことを思い出した。そのため、常にコンビニエンスストアで買った水を持ち歩く必要があった。またシャワーの時や歯を磨く時にも誤って水を飲まないように注意した。台湾の水道管の多くは古く、住宅などに取り付けられている貯水タンクが不衛生などの理由から水道水を飲むことは厳禁とされていた。この時に水道水を飲むことは当たり前ではないと知った。だから水道から普通に水が飲める日本が水ストレスの高い国と聞き、驚くと同時に「なぜ日本が水ストレスの高い国なのか？」という疑問が大きくなった。

調べてみると、実は日本は水の輸入大国だったのだ。これは実際に水を輸入しているのではなく、輸入している食料に関係しているそうだ。食料を輸入している消費国において、もしその輸入する食料を日本で生産するとしたら、どのくらいの水が必要か推定したものを「バーチャルウォーター」と言う。海外から食料を輸入することによって、本来は自国で使用するはずの水を消費せずに済んでいるのだ。日本は食料自給率が低いなどの理由でバーチャルウォーターの輸入量と日本の年間の水の使用量が同じだ。これだけの大量の水を輸入していることは私たちの国も水不足だと言えるだろう。また日本が食料を輸入している国の

中には水ストレスを抱える国が多く存在する。日本が輸入に頼ることで他国の水不足の原因になってしまっているという問題もある。私はこのことを知り、今の現状を変えなければならぬと強く感じた。

「水ストレス」を解決するために、まず私たちに出来ることはバーチャルウォーターの量を減らすことだ。普段私たちが食べている物にどれくらいの水が使用されているのかを知ること、水に対する意識を変えることが出来る。食べ物には全て水が必要なのである。日々の生活の中で、シャワーや洗い物をする時はこまめに水を止める、水洗トイレは大小レバーを使い分ける、洗濯はまとめて一度に洗う、歯磨きはコップに水をためて行うなど、節水を意識することが重要だ。また世界に誇る日本の栽培技術や高度な開発技術を活かして、水なし農業や気候風土に合った作物を栽培することで、日本の食料自給率を上げることが出来る。さらに、水の大切さとあわせて農業の重要性も認識していかなければならない。それが輸入に頼らない地産地消にもなり、他の国の水不足解消にも繋がる。食べ残しを捨てることも間接的に水を無駄にしていることと同じなので、ご飯を残さず、食べ物に感謝し世界共通の大切な資源「水」を、私たちと地球の未来のために残していきたい。「水ストレス」などの以前にはなかった問題が次々と出てきている。

人間が生きていく上で水は欠かせない。水がなければ私たちは生きていくことができないのだから、「水」について考えることは私たちの「命」について考えることであり、それは皆で考え解決していかなければならない。